

東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット(HPU)  
医療政策実践コミュニティ(H-PAC)主催

**医療圏データ分析・考察コンペ**  
～「データによる可視化」をやってみよう。その結果を共有しよう～

**募集のご案内**

医療政策実践コミュニティ（Health Policy Action Community、略称 H-PAC）は、東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット（略称 HPU）における自主的社会的活動との位置づけで、2011年4月に立ち上げられた、医療政策に関する実践的グループ活動を行う研究会です。2016年3月末をもって終了する HPU/H-PAC のプロジェクトの締めくくりに、2016年3月13日に公開シンポジウムを予定しており、地域医療構想と次期医療計画の内容を深め、さらには地域の健康アウトカムを高めるための課題と解決策への道筋を議論いたします。

その一環として、地域医療構想／地域医療計画の策定に関わる方、それを支援する方、それに関心のある方、ひいては地域の一般住民が地域の現状を示すデータに親しみ、その分析や考察に慣れることができるように、医療圏データ分析・考察コンペを実施することといたしました。

医療圏ごとに S（ストラクチャー：構造）、P（プロセス：過程）、O（アウトカム：成果）のデータを一望できる一覧表（全国の病床機能報告制度データにその他の情報を追加）をご提供します。この一覧表を活用した分析から「見えてきたこと」をご応募ください。

専門家による高度な統計的分析はもちろん、患者団体や地域住民の有志あるいは現場の医療介護提供者などによる住民目線・現場目線のシンプルな考察、データの収集と公表のあり方に関する考察など、どのような発想・切り口のものでも大歓迎です。

みんなで一緒に、地域の医療を盛り立てましょう。奮ってご応募ください。

## 医療圏データ分析・考察コンペ 概要

○主催 東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット (HPU)  
医療政策実践コミュニティー (Health Policy Action Community、略称 H-PAC)

○ウェブサイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/>

○目的 「地域医療を動かす」  
多様な立場の多くの方々により、全国の病床機能報告制度等のデータを一望・分析し、データ分析の結果や方法を共有することで、全国の地域医療構想と次期医療計画の質の向上の一助とする。  
また、各地の PDCA サイクルの改善につなげ、ひいては長期的には地域医療の均てん化に貢献する。

○対象者

- ・一般に医療計画、医療政策に関心がある方
- ・下記の委員や事務局担当者を支援できる方
- ・都道府県の地域医療計画と地域医療構想に関する審議会や検討会（部会、圏域会議等含む）の委員
- ・都道府県の地域医療計画と地域医療構想に関する審議会や検討会の事務局担当者

応募は、チームでも個人でも構いません。主任応募者を 1 人決めていただきます。  
なお、H-PAC としては異なるステークホルダー（立場）の協働を推奨いたします。

※HPU/H-PAC のステークホルダー分類：

- ・患者支援者：医療計画・地域医療構想に関連する会議体の委員。また、患者・市民団体、患者支援団体、患者相談、患者擁護、患者コーディネート等、患者や市民を支援しサポートすることにかかわっている方
- ・政策立案者：医療計画・地域医療構想等に関連する会議体の都道府県／市町村行政担当者。また、行政（中央省庁、地方自治団体）における医療行政担当官、議員、議会関係者など、医療サービスを企画・立案する立場にある方
- ・医療提供者：医療計画・地域医療構想に関連する会議体の委員。また、都道府県／郡市医師会メンバー、都道府県等の病院団体等のメンバー、医師、看護師、各種の医療従事者、医療関連企業の企画立案担当者、医療機関経営者など、医療サービスを提供する立場にある方
- ・メディア：全国紙、地方紙、その他新聞、テレビ、専門誌、通信社などにおいて、医療に関する報道・執筆を行うジャーナリズムに従事している方など
- ・学術研究者：公衆衛生、医療政策などに関連する学部学科講義の教員、大学院生など

○実施体制（ステークホルダー別に表記）

### 【選考委員会】

〈学術研究者〉

奈良県立医科大学医療政策講座 教授

今村知明さん ◎選考委員長

慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 教授

宮田裕章さん

〈患者支援者〉

NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長

山口育子さん

〈政策立案者〉

全国訪問看護事業協会会長、地域医療計画実践コミュニティー (RH-PAC) 代表世話人

伊藤雅治さん

〈医療提供者〉

三井記念病院院長、H-PAC アドバイザー

高本眞一さん

〈メディア〉

日経 BP 社 医療局編集委員・日経ビジネス編集委員

庄子育子さん

## 【企画委員会】

〈学術研究者〉

国際医療福祉大学大学院准教授

石川雅俊さん

〈患者支援者〉

周期性嘔吐症家族会 CVSA JAPAN

江本 駿さん

〈政策立案者〉

沖縄県中部病院感染症内科・地域ケア科医長

高山義浩さん

〈医療提供者〉

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授

渡邊清高さん

〈メディア〉

時事通信社 記者

井上愛彩さん

## 【運営事務局】

東京大学公共政策大学院 HPU 特任教授

埴岡健一

東京大学公共政策大学院 HPU 特任研究員

吉田真季

東京大学公共政策大学院 HPU 学術支援専門職員

岩井万喜

## ○日程

- ・2015年12月25日(金) 募集開始(本要項の公開)
- ・2016年2月10日(水) 募集締切
- ・2016年3月4日(金)まで 審査、表彰作決定、通知
- ・2016年3月13日(日) シンポジウム当日に発表／表彰／講評、受賞者による発表

## ご参考：

### \*医療政策教育・研究ユニット(HPU=Health Policy Unit)とは

東京大学公共政策大学院の1ユニットで、大学院生向けの医療政策講義、研究、社会人向けの社会活動を行っている。

### \*医療政策実践コミュニティ(H-PAC=Health Policy Action Community)とは

HPUの社会活動として行っている人材養成のための実践的勉強会で、患者支援者、政策立案者、医療提供者、メディアの4つのステークホルダーが集まって、「医療を動かす」をモットーに政策提言、事業計画などを作成している。

### \*地域医療計画実践コミュニティ(RH-PAC=Regional Health Plan Action Community)とは

あるべき地域医療計画の姿を検討し社会に発信しようとするプロジェクトで、4つのステークホルダーの有志たち約100人が参加。2014年4月から活動し、RH-PAC版ガイドラインの策定に取り組んできた。

2014年12月公開「地域医療ビジョン／地域医療計画ガイドライン」

2015年9月公開「地域医療ビジョン／地域医療計画ガイドライン 実践編」

は、HPU/H-PACサイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/> に掲載されています。どうぞご参照ください。

## 募集要項

### ●応募締切

2016年2月10日(水) 当日必着

### ●部門

下記の①～③のうちから1つを選択

- ① 一般部門(患者支援者、医療保険者、政策立案者、医療提供者、メディアなど。②と③を除くすべての方)
- ② 研究者部門(大学の公衆衛生、医療政策などに関連する学部学科講義の教員、大学院生など)
- ③ 地域医療計画実践コミュニティ参加者(RH-PAC1/2の参加者で、かつRH-PACプロジェクトで実施したことに関連する分析を行う場合。分析対象がRH-PACと関連しない場合は①か②で応募)

### ●テーマ

A 1)～3)、Bのいずれかを選択の上、具体的テーマを設定

分析の切り口は、定量分析(主に数値データの分析)、定性分析(評価対象の現状、構造といった質的な特性の分析)、あり方の提言(必要な体制、仕組み、情報などに関する提言)のいずれでもかまいません。

#### A 指定テーマ(企画委員会が推奨するテーマ)

- 1) 医療のアウトカム等の格差を生む要因の分析  
標準化死亡比、在宅復帰率、在宅看取り数、ADL改善、1人あたり医療費/介護費…といった、現状で把握可能な医療のアウトカムに、地域格差や施設間格差が生まれている場合、何がその要因となっているのかを探索的に分析する。分析対象とするアウトカム指標、分析範囲、対象分野等は各自で設定。
- 2) 将来の需給ギャップを見据えた適正医療資源の提示  
将来の医療需要に過不足がなく、質の高い医療が均てん化されるために必要な医療機能の転換、人的資源(医師数、看護師数など)、コスト(医療費、介護費など)等を提示する。対象範囲や分野は各自で設定。
- 3) データベースの活用支援ツールの作成  
データの効果的な可視化(グラフ化、地図表示など)、データの簡易な分析(並べ替えや必要項目の切り出しなど)を支援し、初心者や一般の方もデータベースの意義を理解して活用できるようなツールを設計・提案する。対象範囲や分野は各自で設定。

#### B 自由テーマ(指定以外のテーマを自由にご設定ください)

ご参考のため、以下にテーマを設定する際の切り口を例示します。あくまで例示であり、ご応募されるテーマがこれらに関連するかどうかは審査に影響しません。

- 患者・住民関係者：
  - ・所属する患者団体が対象とする疾患を切り口に分析
  - ・居住する県・二次医療圏を分析
- 医療保険者：
  - ・保有する地域別コストデータを加えて分析
  - ・保有する地域間流入出データを加えて分析
- 政策立案者：
  - ・県の地域医療提供体制を分析
  - ・厚生労働省提供電子データブックの二次医療圏データを加えて分析
- 医療提供者：
  - ・職能団体：二次医療圏の専門職数を加えて分析
  - ・学会関係者：学会の治療成績アウトカムデータを加えて分析
- メディア：
  - ・基礎データを解析し、課題について各支局で取り上げる(全国紙)
  - ・地域のデータを解析し取り上げる(地方紙)
- 学術研究者：

・ 所在県や地域のデータを分析し、地域医療構想、次期医療計画の現状分析とあるべき方向部分を提言

○RH-PAC 参加者：

・ RH-PAC ガイドラインで提示した各疾病・事業の施策・指標マップを検証

など

●主催者の提供するデータ（1期：2015年12月25日、2期：2016年1月上旬 に分けて掲載）

「全国地域別・病床機能情報等データベース」

A 表 「二次医療圏表」：二次医療圏別に合計約 2000 項目の構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）、成果（アウトカム）指標を集めたもの。内訳は医療系、介護系、人口系、死亡率系、医療費系、その他の各データで構成される。

B 表 「病院表」：全国約 7000 病院別に病床機能報告の 330 余りの指標を集めたもの。

C 表 「病棟表」：全国約 7000 病院の約 2～3 万病棟別に病床機能報告の 80 余りの指標を集めたもの。

（B 表、C 表は各都道府県が個別病院別に公表したデータを一覧表にしたもの、A 表は B 表を二次医療圏別に合算したものに多数の二次医療圏別データを追加したもので、このようなデータが一般に供されるのは初めてのことです）

具体的な内容、解説は HPU/H-PAC サイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/> に掲載

※上記データベース以外の指標やデータを独自に追加くださることを歓迎します。ただし、それら追加データの分析結果が抄録シートやシンポジウムでの発表に含まれることで問題が生じないよう、応募者ご自身で十分にご確認ください。

●提出書類

以下の 2 点を提出してください。

◇応募用紙：(1) プロフィールシート+ (2) 抄録シート（図表 3 点までを含む）

・フォーマットは HPU/H-PAC サイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/> からダウンロードできます。

・ Microsoft word 形式のフォーマットに入力後、ご自身で PDF 形式に変換してください。全体で 3 ページに収まっていることを確認してください。

◇分析レポート本編

・ PDF 形式で 1 つのファイルにまとめ、ファイルサイズは 2MB 未満を目安としてください。

・ 図表等の参考資料を含め、全体で 20 ページ以内（最少ページ数の制限はありません）。

・ 構成は指定しませんが、「目的／問題意識」「方法」「結果」「考察」「提言」など一通りの要素を含み、レポートを通読すると成果物の全体像を十分に把握できるような、まとまりのあるものとしてください。

なお、提出いただいた書類は返却いたしません。

●送付先

以下の 2 通りの方法で提出してください。締切日はいずれも共通です。

◇事務局への送付（特定記録郵便、宅配便など配達記録の残る形で送付願います）

宛先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット H-PAC 係

TEL 03-5841-7879

\* 電話によるお問い合わせ、直接の持ち込みはご遠慮ください。

◇事務局へのメール送信

・ 2 点の提出書類を添付ファイルでお送りください。

・ 送信時にご自身のアドレスを Cc に加え、送信エラーが起きていないことを確認してください。

宛先：

[hputokyo@gmail.com](mailto:hputokyo@gmail.com)

現物の送付、メールでのファイル送信の双方を完了された場合のみ、受理とみなします。

●表彰について

3月13日の公開シンポジウムにて以下の表彰を予定しています。

最優秀賞、優秀賞、特別賞の受賞者のうち、当日ご来場が可能な方には、公開シンポジウムで内容を発表していただきます。発表時間、形式等は選考結果とともにお知らせします。

また、全ての応募者に、シンポジウム会場にてポスター発表の場をご提供します。

- ・最優秀賞（1件）
- ・部門別優秀賞（各部門 若干数）
- ・特別賞（若干数）
- ・奨励賞

（なお、大変恐縮ですが、賞金・賞品などはございません。また、ご来場の際の交通費等をご自分で負担していただくこととなります。ご理解をお願いいたします）

#### ●受賞作の選考

プロフィールシート、抄録シート、分析レポート本体をもとに、選考委員会において、以下のような観点から選考を行います（成果物の属性によってはすべての観点を兼ね備える必要はありません）。

#### ◇基本的観点

- |                    |                                                             |
|--------------------|-------------------------------------------------------------|
| 1. テーマの重要性・喫緊性：    | 2025年のあるべき地域医療の実現に向けて、いま取り組む意義のあるテーマが、明確な問題意識に基づいて設定されているか。 |
| 2. 実践・実現可能性：       | 実際の政策立案に寄与するか。医療やケアの質向上、住民の健康アウトカム改善に向けた具体策が示されているか。        |
| 3. 視点・切り口の新規性・独創性： | 地域医療構想／計画に関連した国内外の先行モデル、分析・考察と一線を画した新規性・独創性を感じられるか。         |
| 4. 分析の論理性：         | 適切なデータを用い、適切な指標や尺度を設定して、妥当性／再現性のある分析を行っているか。                |
| 5. 考察の実証性：         | 地域の実情（数値以外の要素を含め）が考慮・反映されているか。論理的思考に基づき、考察に一貫性、整合性があるか。     |
| 6. 表現力・訴求力：        | 広く世の中に発信しうる水準の表現力・訴求力があるか。地域医療を動かすパッションが感じられるか。             |

#### ◇付加的観点

- ・ステークホルダー同士の協働により相乗効果を生んでいる
- ・独自のデータを追加し、有益な分析を行っている
- ・基本的観点1～6から鑑みて、特に評価すべき、卓越したものがある

#### ●選考結果の通知

3月4日までにメールにて、すべての主任応募者にお知らせする予定です。

発信元のメールアドレスは HPU/H-PAC 事務局 [hputokyo@gmail.com](mailto:hputokyo@gmail.com) です。ご注意ください。

#### ●問い合わせ先

[hputokyo@gmail.com](mailto:hputokyo@gmail.com)

提供するデータや応募の手順に関し、追加の情報が生じた場合、順次 HPU/H-PAC サイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/> にアップいたします。適宜、ご覧いただけますと幸いです。

以上